

**製品名: ELK1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80566**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	/

**抗原情報**

遺伝子名	ELK1
別名	ELK1
遺伝子 ID	2002.0
SwissProt ID	P19419
免疫原	大腸菌で発現した ELK1 の精製された組み換え断片。

**背景**

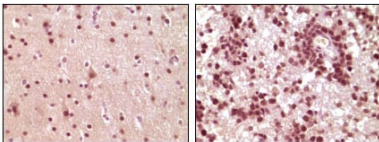
転写因子 ELK1 は、ETS がん遺伝子ファミリーおよび三元複合体因子 (TCF) サブファミリーに属し、染色体 Xp11.2 上に位置し、転写を刺激します。プリンを多く含む DNA 配列に結合します。TCF サブファミリーのタンパク質は、c-fos がん原遺伝子のプロモーター

ター領域にある血清応答因子および血清応答エレメントに結合して三元複合体を形成します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ras-raf-MAPKシグナル伝達カスケードの核標的ですが、Elk1は、C末端のS/TモチーフのクラスターにおいてMAPキナーゼ経路によってリン酸化され、活性化MAPキナーゼの直接的な標的となると考えられます。生化学的研究によると、Elk1はMAPキナーゼの良好な基質であり、Elk1のリン酸化および活性化の動態はMAPキナーゼ活性と相関し、MAPキナーゼの阻害変異体はin vivoでElk1の活性化を阻害することが示されています。さらに最近の研究では、Elk1がストレス活性化キナーゼSAPK/JNKの標的でもあることが示されています。Elk1のリン酸化は、成体海馬におけるシナプス可塑性にも関与していることが示唆されています。

## 研究分野

MAPKシグナル伝達経路

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳腫瘍組織の免疫組織化学分析。DAB染色によるELK1マウスmAbを使用して核と細胞質の局在を示しています。